有像無像
小社探
繪八
上

言者ハ言ひと口り関するハ彼世を忘
白眼ハて。神乃不祥と捨ゆ支離。
黙言ハ余ノ。鼻て息実ハ又聖乃
偷閑とゆ法しゆ夷居ゆ。下学
して上達するハ。いと安ゆ牛鬼ヲ
引ハ。格を乱て角に中ハ野の
鉄炮の遣放よきゆ。所詮学問嘴

みて外を磨ハ。虎嵩めさてうとなし。
童の似指亂て依怙あるを顧錫也。
直れ直やと。遠ゑいまを書ハ
いつれあやしうて極人られ。
枝を吹ゑ時風下ゑ立。四海浪の
川の如世う尾すりゑ。神國は安穏
恵を蒙しひ。うゝくと業なれて

学ても誰むもの人ハ
知て我く己くうゝく。世ゑ切ゝて食ハ
米虫ゑ類し。酒をして眠ハ鬼共同全。
ゼあて國ゑ恵れる一言を吐て天恩を
報じ。神恵を謝しまゝと工夫
ど。下地善ゝ知ゝ恵ゑ鑿鈍く。
なゝ嚴ゆ人言葉かゝ

なるゝ物識事識の美仰して。青いるゝふ
八東方の生気を引立。稼ゝをかるゝへ
闇ゝに迷ゝふよゝいてゝんと。ゝ和を
つけて。そ我ゝ知へきゝなんと。奇神の訓ハ。
繕化法。ほゝ。ゝつをゆへかくゝをゆや
ゝゝせゝゝ捷ゆゝ車おくゆゝとゝす
ゝ。誠とゝゝ。ゝれハ國風俗の仮名よ

仮つて。諸人の讀やそゝんゝを祈ゝ。
他の法ゝ我國。他ゝ人ゝ奇人と。
日の本負殺れ兄弟同志ゝゝ奇人
て。内外の神ゝ威を耀し。荒ち
ハ垣をト直し。麦の奥。山の洞。
樹ゝ下。谷ゝ峡まで。何方も。後ゝ
神栄ゝと心ゝかくゝ。有像無像

小社探しと是ぞ。和歌は道ばた
として。毛髪人に降系の宮中。又
爲は光る宮あきとて。居習いき人
くかハ神一祓も祈ますとハ。余り
正直は天窓搗なんゝ

仙切所

殘口

天地ハまぐひけゞ國けまして人生れぬ所ハ寂滅
なる無爲なる大極なるもいまて識得べき境
なるわゝ口は富てゝ文字にあらハしかゝ限り
乾坤位人富草木新たゝりてのと凡大千界
乃内國ハ萬國もあるとあぬ世界なぬ而ハ推量し
なるふして志すと其土地の風化を法法をきゝ
わゝ天竺支那ハ我邦は濠洲海の通ひあるとて
往古より互に國風人物政事教化治乱興衰も
知ること我ら人天竺の法も我邦は濠洲支那の
教も日乃本に伝わる本天地一貫乃道を

三國の土地ひろきされい其國〻に生れて道に広さ
に者い我國は公道をゆるめとんい賢人うに給る
しけれの風都て支那天竺の道よ渡入て和國乃
神朝を知者多ふて二人のゝ今太平の玉安全
乃御よ生れし男およ國津神の威德を挑くせあ
て其茶の酔さ酒しにを〻す
日本に生れる者一よ知べきうハ三千世界の中
う日本程貴ル國いなし人の中に日本人程うる
いしきいれし日本人程ひ紀人いを日本程ゆさ
のなるあるしと知べしけうなる財の器も業物も

書物も支那よりも天竺〻も相ひい仏國〻〻と
知べし此い是天照大神の生れさせ給人國。その日輪
の皇孫日本の王位をうみけ〻給ふ。億〻萬
業まて日嗣乃種をつゞで日本と始まへさせ給ふ
より天より伝るもし三種の神寶國のもとあ〻せ
給ひしと知べし
舊事紀古事紀日本書紀の述致とうい知べハ三
千界に日本の道よ勝ていなしと知べし至理極妙
乃聖の化れ深く成曉も事も愚賊凡俗の浅
〻なる成概るも兼て者と知べし然い日本の

神乃訓を経緯とし和の公道として我朝に生れし人は
上一人より賤しき迄まて和の道なり儒は儒の道
なり道とは云へて外國の教は此世に生れつきし
人のみなるひかへて遠ざけ我国乃極秘なり
入りて儒士の作る所書籍に在い神の羅人なるを
神理乃迷致なりと云へて仏家乃書籍に在るも
我の羅人なり我神の変化自在無窮無碍を識
得く能まで和書ばかりを愛玩のみ染て無
甚と乃除外は仏教も儒書も是國史も暦数を
天文も術算も悉く哲の嗤笑も浮世系文蒐祖

乃嫁入者も如此慈氣を養ひ貞を弘め耳を肥
とるは和事有ることなれと徳智体乃道儀乃
ならるハ怪力乱神朝は冥々に在るも何の迷
る事なき強星も蛍火も朝湯乃光は消るを
物ともせず過ぎ日本の人乃道り志しなれハ
是肝要乃覚悟なり
夫此一世界建立の後眼前乃境界なる萬物
出生して其萬物乃中に人乃物として霊なる物して
魂魄の中に霊物と兼合性備ハ其性乃天地と
ひとしく偏ざるを天乃命なる道といふの儀なて

人よ人の道を教ゆる其教因てより所よりてうしい多
氣質乃遠因あり
先天生ゝ人の生得飽まで強盛にて勇猛
去にしよりて智と磨き勇と振ひ人と抗んとし他を
抑んとする慢心高く嬉酒に長し長限に身膨
ゝうて物を憐乃情うてたゝ酒に酔めて
いと兄を罵ず嫁に溺ていを犯を因風偏倚
ゆて大欲不道に惟を式好愛と欲く飡害互相
乃大悪因ち依て天より一精灵を下し是を教民
を安らしめゝ釋迦尊乃教十悪式禁ち五逆と制

し酒をとゝ邪を影ず妄語とやち貪欲を恥し免
嗔恚をあざむき愚癡を驕と去程に釈尊の仏教先
王後世捨仏人は人身をあらぐり髮と剃衣
を染愛欲をとゝれ囊衣を纏ひ寒と凌き馬麥
と服て飢と充身と練に戒法を守り仏式結む
み定法を修し邪智をあらして正惠と持我身
を捨て他乃苦式とくひ為悪と止ぶ慈悲と勇一
に迷の中と百八と立てゝ式今様に絡袈裟み
身と飾ひて佞乃夢式拂ひ人を欺に世乃
常なれと戯なくとゝ未世と有ゝて地獄を

怖極樂ハ我れを愚劣強悪の報生ハして欲ゝ欲
ゝを稱ゝを天空圓ハ上圓と覺て載ハつるハをゝ
因果と明して眼前の迷ひとなゝしむ故同過節
はゝそ移方圓なるゝの〻ハ教ゝ徒三千界の外ハ
百億界と云。天地をも月日乃運行も横よあつゝ人。
地獄極樂も亦ハ空ハ〻ゝ海ざゝきなりと雖ゝ人ハ又
亥東西。十方空と示して七ゝ人乃根性ゝ合ゝて
一轍ゝ化ゝ色くゝ偽絲ハ世の身操と直なしめん
と遵ハるゝ是天空の人を教ふるゝ〻のごゝくあゝて
い天空の人ゝ人と成ゝ

亦ゝ邪の國も名國つゝく。利欲あつゝく富貴なるゝい
人をあゝゝ貪ゝしい常ハ盗と。臣ゝて威有は。
主を報ゝ。ゝとゝて勇なるゝい親を退ゝく。春秋乃中ハ
つゝびゝゝなゝ〻のごゝくれ邪國なり。天命を億兆
乃君ゝとゝて忠孝をゝゝへ社稷と平ゝ〻のゝこと
ゝなゝていい支邪乃人ゝ人ゝ〻ゝ人ゝ〻ゝ
我日本も開ゝ始い素盞雄の尊悪ゝて此國を知
給ふゝ大己貴事代主とけゝめて小蠅蛍火乃義
振神ハ草昧闇鈍ゝて乃ゝくゝあゝ此ゝ國い麗
乃境ゝとなゝ人い精猿の類ゝ蓋て清るゝ乃ゝきと

天照神天孫降下し皇道立しめ三種の神宝及
宸言の正しき教添下し給へより蒼人真教守り智仁
勇乃広き恵なるを受得せしめ給へい家もかしこき神
の御国れ徳を以て天津神の御裔なるでい日
本の主と仰ぎ天地と長く久しき天乃日嗣三種
の創なる山川土地。食足財充て国栄民豊なり
去程に人こゝろまこと和ぎ乃情のこゝろ
を自然と人乃人なる国なる程ゆへ朝も直ぐなり
ゆへてなぐさまれたはを立るふせよびと。上代の歴史と
見へく知べしぽくのごとく三国別くの公道とゆるされば

神儒佛よすぐれたるの業なるけれどもこれいなれ
るなり天竺てハ釈迦乃教ハ公道なり佛を
たつぽをうんむ(ゆ)へ支那てハ儒法ハ公道なり
聖教と云へ儒理をあがむべしぽ日本へ入ぬて
国乃事なれ捨る事なれ日本の公道にあらざ
りゆへよ。此方の便よりあるゆへ用ひ。佛乃ゆへ
ぬるゆへこそ
とゝのべ(ゆ)へ理をたゝば儒て和釣と治ん
と佛ハ日本と捨るハ公道をゆるゆへあざるがい
ゆへ天なり神武帝のいまへより日本ハ百官乃とま
神祇伯の役あるて公道の紛れ根元なり。聖徳太子

吉備公菅相公は日本の宏才なり右に出るものなん
いつまも和歌乃学に富日乃本は公道を守るべし
まして甚よく佛法を用ひ儒典を扶わそびるべうの
外の文人情を尽いつまも和朝の学式繁へ知るそのよろし
いと紙夫空へ極し支那へうつる学ばなしを公道を
立てその枝葉に用ふゆへ我神徳うやき神の新乃
助と成しそ山接の外に立者は異風りのして和国人の
わるに天空宰人にして秋津洲は富みし教へ知べし
天数り時運り我朝保元平治乃時より五百年来君
臣道をうしないそ和ゑびして威をいて徳を捨。勇

をもてげんて仁なをつほと。文の学は權変を用ひ智を磨
い謀計を為て。貧者は利を得。弱者は財産を失ゆる
世の成るは偽実乃生いと林り風月を友として人を
教ゆる術つき。賢名の徒は遠合に死島式弥めく身
一を主のもそ生涯をいとなむ。扨は本朝乃国紀歴史
も非り貯へ何者り所為を都鄙とも乱賊より
教さし無少り煙となり社司宮仕も軍役を駆立
ら秩俸も甲冑に身を堅める体にて社乃
縁も文の本由を唱へ先は彼しかり。彼は
と絡まて事実り絡なり無るを孝長乃

乃治天百有餘年天ノ下一統しまこと風ナ雨ミして國
稱氏考なり伝ぐ文学國ノ盛ナ秋い道ノ伝く賢
きの性藝によりてあらわれ儒士といい天文暦等乃
博士まて古德をけるし先哲をあさひて多智宏財の
学倍ふ伝といく等しく各嗣統興絶佛日を耀し
聖德を照さし心天ノ至も支那も我朝乃今に競て
い人物の盛なる事い及へ難し然といえども真日本
の神乃道のく有名無實ふして学ノ古風ノ帰ら
ときなく衆昌なるい習合家ノ入く儒徒の作し
いきふ為たるれい社業鳥井うてきて天ノ書ノ

無為も希にして人氣ノ世り秋ぬ狐狸の入也。奇ノ来ル
人ノ宗と抽出いそうまやうそ近つく神ノ野あくふとい
伝ノ迷ふんどそ山まそつあ神乃式ノ無しない跡形なく
ぬあ異いつ形る事ろと探ぐるに禍一朝一夕のゆへノ
あ比意神天皇の朝ノ五經乃博士伝ろといいこを
神の代近けまい遺風たよく往ろ去あて学者おり
し仁德帝ノ欽明帝乃朝ノ入りて外國乃文字
乃学ろろ書ノ興ノ及ぶ伝ぐ乃ノ千人ノ一人百人
ノ一人ノ出ノ伝く聚ぐ大津大友の二皇子乃文
才群ぬ生ノ人て伝紙と工り世ノ博覚をぬむ

かゝる法学に拘て無きを以て二千二代文武天皇大宝元年二月より教典乃祭はじまり國々に学校を立て儒教と後世しめすより國挙て用ゆる所いとれり我朝の神新八朝乃名称てあつしかして支那乃天神ひとり一柱乃名のみ今乃世にても内乃本宮乃本社ハ和名にて国乃をもをしきをねるものなり。それより已来吾國の文字を賜しきるゝと思ふ多くは。ひらく慶ふ。国語乃やまとことなる代法乃ふかるゝめいつるを国よつて人しゝていにあくのやまとめことばの呂律を悪く漢の文字に順合。平上去入抑揚清濁。文字のとゝ乃さとに極

つまりしまる國よ伝りし大和言葉乃唐土乃字義よ伝ま世て自然乃國語をとりあつめて人に近く人の知る所乃ことばいとを

立ひろ社いるとのとれるに神つる

まわとしきらはいとうとこと葉

國情を往よひぐる世れよ結といふ言葉とかよいしる伝

ゞの日本の國語なる文字よて編どれいるもふ道さに

二ひろ文字乃半乃角りをもれみまゆるみ文字とをと

いて意義とて先とる方くしい國よ用ひ上れる云

素神新なり玉鉾乃道鳥羽玉乃黒めしきりとい

ちんと松を築て是又國より口伝へくるなり神の月
を出しまつり愛よりひと人面乃ちるくるくさほろあるく
て面て白ろろよろこひよりりくくとして祝ひなる
事ろろ月無乃國ろ家アイウエオの文音より出る
されい繩を結ひてもて紙刻てもて形とそれいろ文なり
出雲よ未ありていろはの四十七字よりあるく和
國の文字と作さまりぬ我國い質朴をおろ和とよ
ろろひ其中に神のまと脊仁勇をみつり道より文字神
誠されいてづりくく文字義学にくいさほぐ神
代々の國風なり夫佛法も性理とはるよいろ字

を雜聖学も質と本として文よ泥ます智恵夢高
倍多く大倍の中に学教盛なりと先徳もはるあ倉頡
ろ文字紙作りに鬼神の夜泣しい来乃世ろ倍ろ多
りんと作させしふあるもや陸して直道を本とする
國ろ何そ文字はなと出ぬ用無へさろ神ろ右よ
りてろれ乃上代の人い月本の公道とぬまして文字紙
廃しまの人神乃脳ろ如ぬまりろ佛者も儒士と和
学と本として神國の道をうしろいと変徳なる十四
衆の法は儒学と興行ありて公卿大夫を集りて時乃
牛王学苛をして遠ろ発ます物部乃大連大ろい

うて学者を向眼していく吾神ハ玄遠なる孔丘孟軻ハ食物衣人なり何て神乃上と知きて自今已後ハ入異虚しく諸侯皆退学者血のなることをあゞぶと是学屋鏞より佛法を擇ハゝと日乃談なるか為まて上代ハ名ひ〻甚中にぬるるハ公道を立て乃余情て外国の学とあゝるるかゝも日本の名れ邪ヶ戸といふ〻ハ近代儒者ハ理當乃地をかゝ〻二氣の造化の迹し後して変形といて神を扱佛者ハ支部習合といく神を卑きに扱し佛とをぐれるゝ先よりわゝ〻ひ出く日本乃

公道をいとゝ〻天空の公道といて日本の公道とゝ支那乃公道とゝ〻日本ハ公道とゝ〻ゝ。なるゝ愚俗児女のやうハ理當乃地を形の神ハ智解に扶ゝべさるゝ六十條別支部ハ為八神として佛乃如ひ〻ゝ支部ハ神乃社乃唯一家より勢高なる式想ゝ神人家司の学解者人ハ儒者ハ復て佛者を退くんゝ是賊をゆゝ〻賊を追ゝ月夜ハ筆式あるゝ抜ゝ〻ハむく神道乃義となるぬ

或人問ゝいゝ〻ゝ文学ハ國の主法なるゝ者く排拾ゝ上代ハ文字なゝ世にゝる國語乃ゝ〻ゝ日本乃

之道を立て神の道ばかりを説いて書きたりしかど
いまだ萬人用ひ来り習ひ今にていまだ和国の文
字を用ひ和国の言葉をはなしてもなほ新しくして男い
能字はかりを知るは面目なきことなり支那の文字を用て
ひらがなの歌を楽しむ漢音を学ぶ人たるべき文
盲なりとあやまり来りしは世代を経いあるべきこと
本にて人倫を弱くしんを秩い用ゆる事い支那
学も漢字も用ひしいまだ人乃道ばかり日本の公道を
いまだ知らざるしんいおのれ和学をおし神理を
本にしまつる和乃秘伝を熟しるべき神徳乃

事を知りて神道日ごとに業をん
成人向両部習合。理当公地い。我国の神道をみいさ
ふや善ていべき理をんべき論べる所い理当心地もはべり
一世界の建立をべきは安永習合も得べり我いべ所
乃我朝ハ公道といべい神事するべいべ人事にて
人べ今日の境界の弱るべなり玄妙遠乃場所を
新にして和光同塵乃利益べべ立べ神ま理当公地
安永習合べい拙べべ光両部習合べ理当公地
べ我和べげべ人事日本乃公道なべる我
明べ

両部習合とい根本地大日法身の理神より系法の種
子別出かとして神も大日乃理法より影をうつと立
ゑ為編備家の名目つくるべ法身本有真空妙
寂ともいへきろ独い無しして一世界の建立のるるり
我国紙神ゑと名紙つを神道と立るり混沌未
分乃先を編るるれあるべ去程り三部乃本紀よ
天地の別をいでゐより金の世界のるれるゐと秋津洲
けるれるゐをたるる天角を地るる中一物あり
葦芽のごとくと変形より氣乃化るる形とるや国常立
とて独より湯神出るる諸冊の支神よ交合

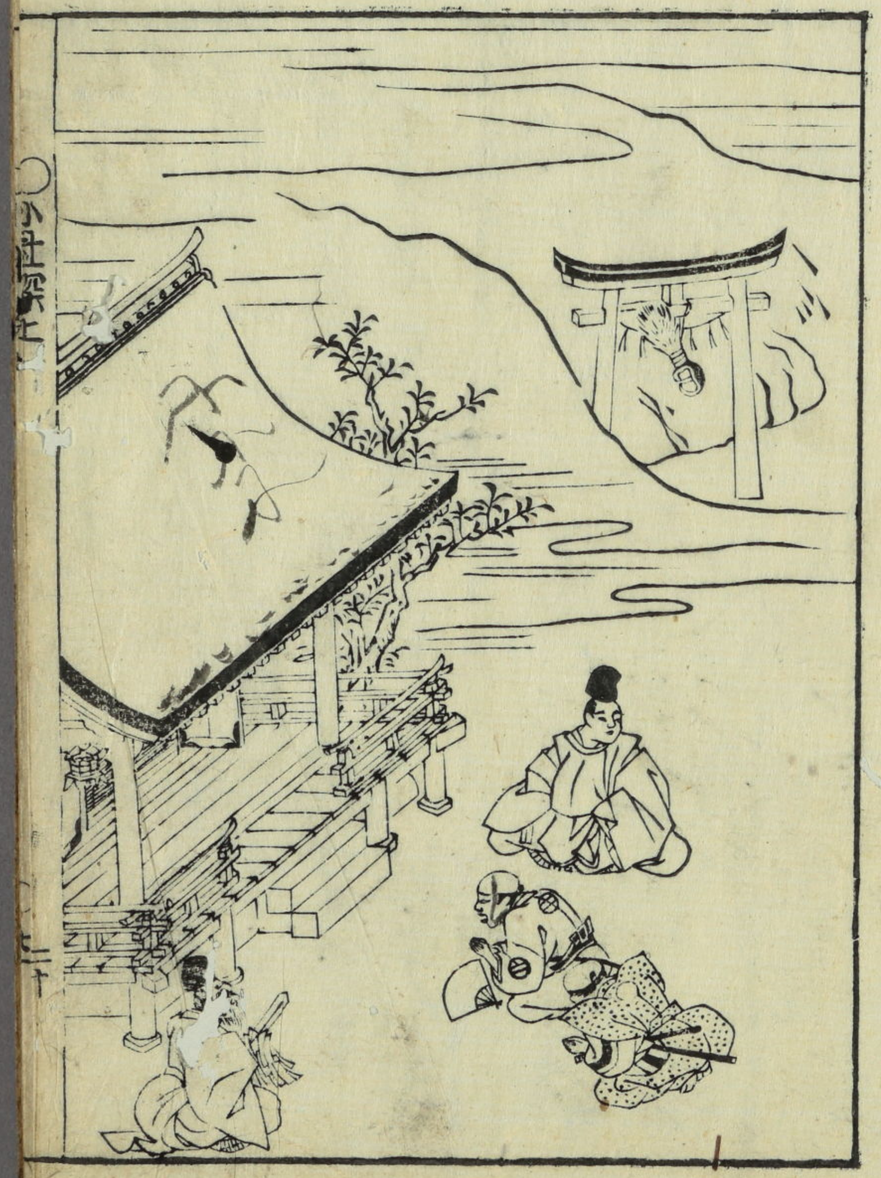
けるゐ二女三男と産まるる天照神天上地下を主るるて
孫皇を世出へ孫より神へ代て神乃人神の
天地なるるゆへ神国と号るる神を崇るるぞ真
先いるるとて独り紀変始変後のせんさくい今日乃
所用ゆあるべ成程ひるるる形をとりて神代の神を
人みてかるるるるるるるるるいら今日れ人の代
乃人の神り神なるるるを知るるるゆ
物とて変色変形の示い無しして名つきて志のて神と
唱通号るて何も四も神としばるるいるぞ日の本ハ別よ
神ゆ号と立国ゆ代吉春日西津洲加茂宮松尾三橋

名を切紙ありて神をこれに祭れ給ふ人に器と家
具の無名にて神靈寶劔鏡倭姫をけめ冠烏帽子
笏石乃帯元下の草履下駄乃類まで神を別まい
名い有ものなり三毒色三毒の示よ何の名式男女共
又理道色欲も法湯不測乃物にて神して遣るゆか
き三毒三色乃至誠感格し二氣の異形造化乃
迹と立陰陽乾坤一般の神れさて物いつまの
國も神ゆるぬ國いなるして和國なり別して
神ゆとい筋いゆるども和名を神國とい神よ形と
りてとうよ神の在ますと事相よ考へる

道を神道と唱へるて直よ天上乃神ゆ降りまして御
へさ御ゆ国なりと立て神ゆといふを
天神七代も国乃始をかる所事相をんくてとく
も實い理を推して事に名はくはだり水火本金
土乃ゆいれて色ゆて形容をあらはゆ立る所よあり
を天照大神恐穂耳乃尊ゆいりていまて形容を
直よれて奥ゆ神を勸請るい三色ゆ有
色乃神明して御幣に舍鏡よむりいをとゆいふ
形容を立て後稜々杵乃尊より下界降臨乃神
八日月を上よいりて明神と号ゆ是

よいあらいの御影とされたまへり人よ交つまへけ
るに人はもとなる天照大神も垂仁の朝よ大倭姫
命祝して澤臨しまつる河の明神みて若彦を立て
天上を主まつる方みてい神ゐるとそ像をあらいと人か
らとなる秘い天照大神い天神みて地神ゐれい神ゐ
るもと明神なりてとのに澤宮まつる根本地乃神
い毒色毒彩といつる勿論みて大地の有形有色い
皆その神乃変動なり中よつめて神ゲもりて國を
ふまもなりて神ゐはまつる色まつる國なるゆ人神
ゐとと素一異理ゆまつるふりて神人合一乃神道と名得

まつい和國の人民れ今日乃所作ゐすゐいち神のまる
所なるもの也
天照大神を天よ祀り湯中の法一女と崇まる神秘
少縁のまつりのあり我國乃大祖と立ゐよ姫氏國乃
名をて倭姫よ流しまして五百余年と経く岩
法あるまつ我國女乃多又和きをおとしまつ和奇を
はまつふる愛度と祝面白とまつるまつる異教外典
よ似るも有まつる鶴鴿乃神よ先達てかりこうり
しかへ凡夷を離まとて知俗情捨まつ悟るへきまつて
恐あまつ天照神乃御鏡よ新と移して宮縁よゆまつ也



迦訶羅と彷ら〻金乃烏帽子乃蛭子三尊数と如
ちんとして云も云ト方乃戯乱を流傳乃〻異国物
識乃文字せんさくに亟され理を局義を攻られて尤
と四〻〻根本の神容までとえらしまい都て神と
形を云い道と遠く彼抑織と裁形せ〻き是の中に
是〻て神国乃遺風とけ〻〻と皆ふるゝぬ鎌足公
八日本神道の中興の祖ゆて形像とのこ〻天下の吉
西をつぎの人源乃湯中い多田と遺像ありて雲孫乃
武光と楠〻元又天下の先兆と命と
既〻怠慢の神と勅頁とうけて人乃奉祭を制〻有

そして床と同〻くもて我と孫〻やをよて詭言〻
作乃為形を立所の權輿ち幸魂奇魂荒魂乃
種〻の神通変現を海乃神の蛇と化〻杯の尾に
丹塗れ爲人結の命れ鳶〻乃〻世名彦の小石〻如
比咩〻語胥の神乃白水〻変〻乃又稲倉乃毫の
猿と雛と家乃稚拙と化〻乃る神紀の載る所乃〻
うゆて乃〻〻〻高貴大神い素盞雄大黒い大己貴
夷い事代主の為ゆて日本草創乃大功を沛神
像ち人今に形容雖も孔世乃經新と表乃妄
偽乃剽盜〻唐冠と為をて鍾馗と混丸歌中を摩

功神ハ一名武進て贈官賜位ゑい社くに神祇あり
て物をとるふわとや宮伝の神へ勅使の度ゑ直ち浄
返答をとりはくに天地一般乃至祇乃神ゑ閉門さま
あるゆ位階をさづきをのくゆ此故爽いゑ那ゑ
ハ無器なる事もちくざるぞなれ
ゑいふ〳〵あ大師よりけまも習合へ出纏真ゆの無漏
乃根本地より天地ゑ出ゑ空妙有の空即是色
とあくいれ出る随縁まわくんて浄穢不二邪正一如
より假ゑ形を現るる神佛へ國ゑ名へ智れも法
位法位乃理如を説くくゆて〳〵今日の化物乃利益を習

合〳〵絲〳〵ゆて仏重ゆ立入てい去祇習合も好ゆ偏
て位ゆ〳〵越とい〳〵も和國今日の公道ゑいわ比絲く
考るし
今時の習合家ゑ佛神水波ゑ立て和光同塵ハ結
縁乃けあくいゑ形いくの佛といくゑの法縁有祇乃
佛あくゑ。彩色をゑくゑ日本ハ神乃本地ゑて本迹
殊絶とくる理ゑ物めて遠背あくゑも根本地乃三躰
即是の妙理ゑ色無形の本ゑハ百佛國土ゑ應化の
身とゆ出さゆ〳〵ゆ彩色も久土をの無始無終ゑ
ハ刹ゑて勇〳〵現をさる本み〳〵十方信土ゑて土の上ゆ

浄土をいとて出家とはいへども世俗の乃
あるこゝハ一佛境界のゆゑ有形のゆゑ形色をいて形骸
乃神の本地とハいへぬるのちの形色も俗さのくのゆゑ
是ハ相ハ迷闇ゆゑ有形のゆゑ形色をいて形骸
の本地と知るゝ儒士乃ゝゆゑそられて一言乃過
若もゆゑ愚人をゆゑ世の俗ひとわゝと
也ゆゑ邪教の社ハ本地堂といて業師観音ゆゑ乃
形像と業本地といふ名目い根本地と根ゝ本
ゝ地の中にあるて形乃ゝねをいゝ事遠ゝは
あゝゝれて形のゆゑ知ゝゝゝゝゝ事遠の神ハい

神像ゝて本地の佛ハ如ゝゝ遣ゝ事思惟ゆ
ゝ戯事ゆゝゝの戯ゝれ中ゝ吏川流の邪説天亟の
怪言ゝ知ゝ知ゝハゝゝゝ知ゝゝゝゝゝ弁智ゝけゝゝ
ハ推ゝて西ゝゝゝゝ思ゝゝゝゝ悪ハ義ぬ去ハハ
ゝそゆゝゝゝゝゝ今日の邪富ゝれハゝゝゝゝ俗ゝ
ゝ道ゝゝゝゝとゝゝゝ流ゝゝゝ智学乃儒士
ゝて西ゝ知ゝゝれども見ゝ佛教とゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝと且ゝゝ地ハ義て神像をゝゝゝゝ俗
乃信力ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ唯一家の社ハ法華
義ゝゝれて俗ゝゝゝゝゝ去ゝゝ神国のゝゝハ義神

して系譜いと[illegible]れども彼佛乃形儀を拜むゆゑる極
行いおこなひを考へ[illegible]神と[illegible]ものつまるとこ
系返もくゝまるゆゑに愚なるものい義物をうを
ても法をうを矣をして[illegible]の擅窓より同じくゆりふぐ
ゆゑて眼おのゝ形をそなへて佛を[illegible]ゆゑけ
ーとせん故より西國三千三百の觀音と形と立てあるま
をれい関東関西より秩百里乃道を行ゝ幸若をい
とつとをゝ八直道をちゆ神訓いゝゝ形をそろそ
凡俗を救へさるゆゑ[illegible]ゝ公の外ゆ神ゆと形と拵
八幣帛も繞も外物のゝらなり麻も内殺も仏ゝ

事して市新ゆ[illegible]して六十餘別より伊勢へ[illegible]ゝ彼
方卅方市殺の[illegible]ゆゑて仏をれゝきをゝ比
ゝ日乃市公簾ゆゝ[illegible]ゝ人皆ゆつゞゝ美
ゆゝのゝ形容ゆ仏をれゝて正直りすゝむ悪俗
なるゆ何として神ゆ形とゝゝさゆゝて強悪狂慢
乃ゝゆゝゝゝ天狗を畧ー雷を繞ゝて怖ーけゝ
ゝゝゝゝ

保四年

卷上終